

令和5年度第2回 神戸市子ども・子育て会議 議事要旨

日時：令和5年3月19日（火）15時00分～17時00分

場所：神戸市役所1号館14階大会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 子ども・子育て支援関連施策（令和5年度当初予算案）について

●事務局

資料1により説明。（省略）

○委員

- ・5ページ（8）学童保育の充実②学童保育職員等の処遇改善について、具体的にどのような処遇改善を考えているのか教えてほしい。

●事務局

- ・全ての学童保育施設に常勤職員を配置し、運営費を増額するという内容である。現在、大規模な学童保育施設では常勤職員を配置できているが、小規模な学童保育施設ではできていないところもあったので、令和6年度は約100施設の学童保育施設において常勤配置を行い、市内全施設において常勤配置ができるようになる。

○委員

- ・運営費の増額というのは、人件費の増額ということか。

●事務局

- ・ご認識のとおり。

○委員

- ・この会議で児童館に関する意見をお話ししたことがきっかけで、児童館について検討する場を設けていただいた。学童保育は午後開始という認識が強いと思うが、子どもが来るまでの午前中にも職員は準備をする必要があり、職員の常勤化が必要だということで、今回の常勤職員配置のため運営費を増額していただいた。また、児童館での子育てチーフアドバイザーの配置も実現した。このような取り組みのきっかけとなったこの会議に対し、大変感謝している。

○議長

- ・児童館では仕事が色々と増え、大変かとも思うが、よろしくようお願い申し上げます。

○委員

- ・2点質問させていただきたい。
- ・まず、予算全体に対して、対象1人あたりどれくらいの予算になっているかわかるようにしていただきたい。市民目線だと、自分の子に対してどれだけの予算が使われているのか、他市と比べてどうなのかがポイントになると思う。例えばこべっこウェルカムプ

レゼントのように、自分の子に対して1万円分のプレゼントがもらえるという具体的な数字があれば、神戸市で子育てして良かったという気持ちになる。

- ・2点目は、コワーキング施設内のサービス内容を見直してほしい。私は保育園に通う子どもがおり、夫婦ともにフルタイムで働いていて、祖父母は遠方におり、あすてっぷコワーキングでは保育園が臨時休園の場合に子どもを預かってもらえないので、長期間、コロナにより子どもの保育園が休園となった際に、1人で遊べない子どもを見ながら仕事をするに困ったことが複数回あった。小学生だと学級閉鎖が同じ状況になると思うが、このように子どものイレギュラーな状況に対して頼れる人がいない保護者が仕事と子育てを両立するために、コワーキング施設が非常に重要な役割を担うと思うので、施設の整備だけではなく施設内でのサービス内容についても、見直していただきたい。

●事務局

- ・例えば教育や、その他様々な形で子どもに関する予算がついており、それらをまとめて1人あたりの金額としてお示しすることは難しい。ただ、神戸市として市民の方に対してできるだけわかりやすく予算についてお示しすべきだと考えており、行財政局において家計簿のような形で予算をわかりやすく示す資料を作っているのので、そのようなものをご覧いただければと思う。神戸市全体の予算は3%増となっているが、こども家庭局の予算は6.4%増となっており、全市の中でも大幅に予算拡充している。
- ・コワーキング施設については、地域協働局男女共同参画課が所管している。無料でサービスを提供しているので、提供できるサービスには限度がある。一時保育など、子どもをお預かりするサービスは様々にあるので、そのようなものもご利用いただきつつ、コワーキング施設が働く方、特に女性にとって使いやすいものになるよう、いただいたご意見は所管課にも共有させていただく。

○委員

- ・1980年代にたくさん建設された民間の保育園について、40年をすぎ、老朽化対策は必要不可欠であるので、予算をつけていただき大変ありがたい。
- ・2ページ(4)産後うつ対策について。一時保育を利用できるのは満1歳以降だが、1歳未満の保護者から一時保育利用について園に問い合わせをいただくことが多い。産後うつ対策について、施設に対して広報が広がっていけば良いと感じている。
- ・もう1点、7ページ(1)児童館のさらなる活用①「子育てチーフアドバイザー」の配置について、気軽に相談できる場として保育園等はあまりパーセンテージが高くなっていない。このような点は団体として反省すべき点だとも思っているが、児童館も含め、地域のNPO団体など、子育て相談にたくさん取り組まれている。市の予算も限りがあると思うので、地域と連携して取り組んでいくことも大事だと思う。

○委員

- ・「共働き子育てしやすい街」としても選ばれ、子育てに関する予算も増額していることについて、市民として嬉しく思う。神戸市の子育て支援について、手応えを感じておら

れるのか知りたい。

- ・ 5 ページ（8）学童保育の充実③夏休みの学童保育ニーズへの対応について、実施可能な場所からと説明があったが、どのような場所からと考えているのか。また、学童保育職員の処遇改善について、処遇を改善した結果、職員となる人はいるのか。
- ・ 6 ページ（3）障害のある子どもへの支援について、西部地域で手応えを感じて東部地域にも拡げられるのだと思うが、どのようにモデル事業の検証をされているのか、もう少し詳しく知りたい。
- ・ 2 ページ（9）子どもの意見を聴く取り組みに挙げられている「G I G A 端末を活用し子どもの意見を聴く」について、大賛成だが、授業時間内で実施することになると、学校現場の負担になるのではないか。

●事務局

- ・まだ予算案の段階だが、神戸市の SNS やこどもっと K O B E くらぶの部員からは好評の声をいただいたり、メディアで取り上げられるなど、反響があることは感じている。予算が承認され、実施できる段階になれば、丁寧に広報をしていきたいと考えている。

○議長

- ・例えば神戸市への人口の流入が増えたなど、実際に現時点で効果として感じていることはあるのか。

●事務局

- ・将来的には、住む場所を選択する際に、子どもはまだ小さいが、高校生になったときを見据えて、神戸市なら通学費が無料だから神戸を選ぼうというような結果につながれたらと思う。

○議長

- ・しっかり広報をしていただけたらと思う。夏休みの学童保育ニーズへの対応についてはどうか。

●事務局

- ・学童保育の夏休みのニーズが高い。すぐに全施設で実施するという事は難しいが、その中でも少しでも進めていけるよう、十分に余裕のある施設から開始を予定している。
- ・常勤配置について、学童保育や保育、教育関係など、雇用は難しい状況が続いている。そのような状況において、学童保育の常勤職員を4月の初めから雇えないということもあると思うが、柔軟に対応いただきながら、雇用を進めていただければと思う。

●事務局

- ・発達相談支援体制の充実について、現在の取り組みに対し大変手応えは感じており、拡充する予定である。最近、発達障害に対する社会の理解も進んできており、発達が気になる子どもへの対応が課題になっている。
- ・療育センターは市内に3ヶ所あり、障害のあるお子さんなどを専門に診る診療所と、障害のあるお子さんなどの療育を行う通園の事業所を併設した施設となっている。また、児童相談所であるこども家庭センターでは、虐待対応だけでなく「障害相談」として発

達に関する専門相談や精密検査などを行っている。これら市が設置する専門機関への相談が非常に増えた結果、ご利用いただくまで非常に長い期間がかかるという課題があったため、今年度に医師・保健師・心理士・福祉の専門職で構成する「こべっこ発達専門チーム」を新たに作った。

- ・西部療育センター診療所では長い時で半年程度と待機期間が大変長かったが、令和5年10月より、こべっこ発達専門チームが区役所に出向き、家族からの直接の相談に応じたり、医師が二次的な健診をするといった取り組みを進めている。その結果、現在は待機期間が2か月程度まで短縮してきており、効果も感じている。来年度は次に待機期間の長い東部地域についても取り組みを拡げていく予定としている。

○議長

- ・最後の質問、G I G A端末を活用した意見聴取についてはどうか。

●事務局

- ・この取り組みについては、広聴の部署と教育委員会で議論をしながら進めており、教員に負担のないやり方で実施を考えている。アンケートの実施は年6回程度を想定しており、直接端末にアンケートが届く仕組みにする。回答方法についてわかりやすい動画を作成するなど、子どもが回答しやすく、できるだけ教員には負担がいかないよう工夫しながら進めていきたいと考えている。

○委員

- ・教育委員会の予算、学童保育、ボールあそびの禁止、駐輪場について、親目線で質問させていただきたい。
- ・13～14 ページに記載されているのは少人数制にするための予算拡充かと思うが、教員が不足、現場の教員も本当に大変そうで、そのしわ寄せが子供にしていると感じている。だからと言って、誰彼構わずたくさん採用してほしいとは思わず、実際に性犯罪で罷免された教職員もいる。14 ページに研修を実施するとあるが、実際に性犯罪が起きている中で、どのような研修を実施して抑制するのか、この研修はそのような目的で行うものなのか知りたい。
- ・また、G I G A端末が大変壊れやすくとても困っている。アンケートを実施するのはいいと思うが、端末の質を向上できないのか。
- ・学童については、たくさん予算がついて手厚くなるとお聞きしたが、低学年の下校時刻が早まり、週に1回、13時45分下校になることに対し、親から困っているという声を聞いている。女性の社会進出を推進しようとしているのに、子どもの下校時間を早めるのは矛盾しているのではないか。
- ・3点目、8 ページに記載のボールあそびの看板がどのような基準で付けられるのかが気になる。近隣の公園でも、ボールあそび禁止の看板が複数設置されており、子どもが遊ぶ場所がない。代案としてボールあそびができる場所を示してもらえないと、子どもとしては公園でできることが無くなる。
- ・駐輪場について、親子で無料になるというのはとてもありがたいが、そもそも駐輪場が

足りておらず、通勤の定期すら買えない満杯の駐輪場ばかりだと感じる。空いている駐輪場を活用するというのはとても良いと思うが、まずは駐輪場が当たり前に見えるよう整備してほしい。

●事務局

- ・教員不足のため、教育委員会としては人材の確保にかなり力を入れて取り組んでいる。教員によるわいせつ行為が起きていることも事実。研修については性犯罪に特化したものではないが、コンプライアンス全般に関する研修を各キャリアに応じた内容で実施している。また、性犯罪・性暴力の防止については、啓発動画やチェックシートによって啓発を行っている。性犯罪の防止については、研修も1つの方法ではあるが、何かあったときに子どもがすぐに相談できる体制も併せて実施している。
- ・G I G A端末について、現在導入している端末は5年間のリース契約としており、令和8年2月までのリースとなっている。次の端末の調達についても検討を始めている。現在の端末について、故障した場合は当然、すぐに修理の対応をしている。端末の不具合についてはその都度学校や保護者からご相談いただき、個別に対応していきたいと考えている。

○委員

- ・G I G A端末の修理率を教えてください。

●事務局

- ・修理率は出していません。
- ・使い方などによってはうまくいかないこともあるので、個別に学校から話を聞きながら対応しており、そのような予算も含めて措置を行っている。

○議長

- ・端末は、P Cではなくタブレットなのか。

●事務局

- ・切り離してタブレットとしても使えるP Cである。

●事務局

- ・授業時数について、学校として適正化するため取り組んでいるが、おっしゃる通り保護者にとっては急に授業時数が変わると仕事の都合もあり困るという声もあると思うので、できるだけ早くお知らせするよう教育委員会としても指導しており、ご理解いただきたい。

○議長

- ・ボールあそびの件はいかがか。

●事務局

- ・この事業は建設局所管であるが、公園には禁止事項を明示した看板が目立つという声もあるので、フェンスを設置するなどの改修も行い、安全対策の上で公園でのボールあそびができることを明示するなどイメージ改善を図る。また、公園面積が2,500㎡以上ある住区基幹公園を1小学校区に1公園以上整備すると聞いている。

●事務局

- ・神戸公園プロジェクトというものを令和6年度に開始しようとしている。公園でボールあそびを含めどのようなことができるかをわかりやすく図示したり、拠点公園の整備、にぎわいのある公園づくりとして多様な世代が集えるような公園の整備も進めていると聞いている。

○議長

- ・駐輪場について、使える駐輪場があまりないということだがいかがか。

●事務局

- ・駐輪場の整備についても建設局が所管しているが、どれだけの利用者がいるかを見越して整備を進めており、その上で一定以上の台数が見込まれる場合は有料、それほど多くない場合は無料の駐輪場もあるという現状。急な住宅供給に対して整備用地がないという場合ももしかしたらあるのかもしれないが、いただいたご意見については建設局へお伝えさせていただく。

○委員

- ・G I G A端末について、子どもが「端末が壊れた」と言うときに様子を見ると、端末の更新中に操作して動きが止まってしまったことや、再起動してみたら直ったというようなこともあった。子どものリテラシー不足が影響しているケースもあるのではないかと思う。まだ端末を利用するようになってからの期間も短く、指導についても途上段階だと思うので、端末操作の教え方も改善していってもらえたらよいと思う。教員にとって負担が増えることにはなるかもしれないが、子どもにとって将来の役にたつ勉強になると思う。

○委員

- ・4ページの「仕事と子育ての両立支援」では、保育園、認定こども園、幼稚園で働く保育教諭へ手厚く処遇改善などを実施していただいているおかげで、神戸市は平均の就労期間が長くなっており、先生たちが同じの施設で長く働けるようになってきている傾向があると思う。他市で働くよりも神戸市で働く方が良いと思ってもらい、保育士・幼稚園教諭の確保に繋がっていることに対し、ありがたく思う。
- ・先日、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の養成校との懇談会を行った際、入学者の定員充足率が平均約60%程度と大変低くなってきており、特に短大については50%を切ると聞いた。このように、先生になりたいと思わない方も増えているが、小学校、保育園、幼稚園も働き改革を推進している。
- ・10年以上前から保育園がかなり増えているが、保育園では子どもを12時間預かってもらえるが、子どもが小学校に上がると預かってもらえる時間がかなり減るので保護者は困る。その状況に対応するため学童保育や就学前の子どもの保育の場所を増やしているものの、先生が足りないという状況があるので、社会でみていくことや、保護者の協力も必要だと思う。
- ・1人の子どもに対する予算額については、3歳児以上の保育料無償化や保護者の収入に

応じた保育料など、保護者の負担額を減らす分、神戸市が多く負担している。保護者が支払った税金分は返ってきていると言えるのでは。特に神戸市は1人に対して手厚くしているということを大まかな数字を出して市民に示していただいても良いのでは。

- ・また、特別支援について、障害の判定をし、通級に行くか療育に行くかを決めるところまでは手厚くなってきているが、その後療育や通級に行った際の支援がまだ手薄だと思う。そのような場合、放課後デイサービスを利用される場合などが多いが、そのような施設でどれだけの支援をしてくれるのかと疑問に思う施設もある。今後、必要な特別支援を受けるための予算もつけていただくと大変ありがたい。

○議長

- ・議題1についてはここまでとさせていただきます。

(2) 子ども・子育て支援事業に係る基礎調査(利用希望把握調査)の結果(速報版)について

●事務局

資料2により説明。(省略)

○委員

- ・40ページに記載の小学校高学年の放課後の過ごし方について、「1人で過ごす」が18.2%、「きょうだい」が53.9%、合計72.1%が大人と過ごしておらず、子どもだけで過ごしているということになると思うが、「子どもだけで過ごす」が72.1%だとまとめていただいた方が良いと思う。

●事務局

- ・選択肢が複数回答可能となっているため、「きょうだい」を選んだ方の中には、おうちの大人の人ときょうだい両方を選んだ方も含まれているのではないかと思う。わかる範囲で内訳を確認させていただく。

○委員

- ・このアンケート上でも学童保育の利用希望が高く、議題1では学童保育職員の常勤化を進めるとの話があったが、おそらくアルバイト職員の方が多いかと思う。アルバイト職員の質向上のために研修や研修にかかる費用など、どのようにされているのか知りたい。

●事務局

- ・学童保育については、常勤職員の配置を行うため今回予算拡充を行っているが、日々の運営については、パートの方中心に運営しているところも多い。指定管理制度の中で、基本的には各運営法人から職員に対する研修や質の向上をお願いしている。学童保育全体としては、放課後児童支援員に対して、神戸市主催で勤務年数に応じた研修も実施している。いただいたご意見を踏まえ、アルバイト職員の質向上に向けた働きかけについても指定管理者に対して行っていきたい。

○委員

- ・アンケートの回収率が前回に比べて低下しているが、これが共働き率の向上によるものであるのだとすると、むしろ回答できなかった方の意見に注目すべきではないかと考えるがいかがか。

●事務局

- ・アンケートの実施条件として、調査日数は前回と同程度であるが、期間について、前回は年末までを締め切りとしていたが、今回は年末年始をまたいで調査を実施したこと、また、回答の手段として郵送だけではなく Web での回答も追加したこと、回答期間が年末年始をまたいだことが前回と比べて異なる点となっている。Web でアンケートを実施すると回収率が下がる傾向があるが、調査票を届ける際は郵送で行っているため、そこまで影響があるものなのかと思う。
- ・他都市の状況も確認したが、全国的に回収率が下がっている傾向のため、共働き世帯が増え、お忙しい方が増えたという要因もあるかと思っている。対処として、配布数や期間などを工夫し、なかなか声を届けにくいお忙しい方も回答しやすい方法を今後も検討していく。

○委員

- ・調査を実施される際はいつも、神戸市にお住まいの外国籍の方など少数者の声も聴くことができるようお願いしているが、今回の調査についても少数者の声も聴き、政策に反映できるようになっているのか、反映できるような工夫や配慮ができるようになっていけば良いと考えるがどうか。

●事務局

- ・配布の際は、住民基本台帳より無作為で抽出した方にお配りしているため、外国にルーツのある方についても含まれていると考えており、外国語のアンケート調査票も同封して配布している。加えて、支援が必要な方へのヒアリングも実施が必要だと考えている。

○議長

- ・回答はすべて日本語だったのか。

●事務局

- ・外国語での回答がどれだけあったかは改めて共有させていただく。

○委員

- ・絶えず工夫、努力、配慮をするということが大切だと考えているので、忘れずにしていただければと考える。

○委員

- ・以前の会議で他の委員からも指摘のあった 22 ページ「育児休業の取得状況」について、父親の育児休業取得率が上がっていることは大変良いが、男性と女性とでは取得する期間が全く異なる。取得期間もわかるよう工夫いただくようお願いする。

●事務局

- ・今後は日数についても聞くよう検討したい。

○委員

- ・ 8 ページ「定期的な教育・保育事業の利用の有無」で「家庭的保育」の欄があるが、ここには「小規模保育施設」もこれに含まれるのか。11 ページには「小規模保育施設」と記載があるが 8 ページには無く、4 歳児などの回答が含まれており、一般の方には自分の利用している施設がどれに該当するのか判断するのは難しいと思うので気になった。
- ・ また、「相談する人がいるか」「見守りをする人がいるか」との質問に対して「いない」が多いことが気になる。居場所やこども食堂、学童の充実など、これから手厚くしていかなければならないと感じる。

●事務局

- ・ 小規模保育は家庭的保育に含まれておらず、資料から漏れていた。小規模保育利用は 4.7%となっている。

○議長

- ・ 相談相手がいないということ自体が重要ではないかという指摘があったが、いかがか。

●事務局

- ・ 我々としても「いない」ということは非常に気になっている。最初の議題で次年度予算についてご説明したが、児童館に子育てチーフアドバイザーを配置し子育て相談に常時対応できる体制を整えることを始め、産後うつなど出産直後に悩まれる方が相談しやすいよう、産後ケアや産後ホームヘルプサービスなども充実させている。様々な相談窓口を用意していても、ご存じない方や急なことで調べる余裕のない方もいらっしゃると思うので、本日いただいたご意見も踏まえ、適切に周知をしていきたい。

○委員

- ・ 困ったときにどこを頼れば良いかがわからない方がいらっしゃるが、もっと民間の力を使っていただきたい。例えば産後ホームヘルプサービスの事業所一覧が無く、サービスを利用するにあたって誰が来るのかわからないとサービスを利用しにくいと思うので、そのようなものも作っていただき、民間事業者にも情報をもっと提供してもらいたい。

○委員

- ・ 高校生通学定期券の拡充や G I G A 端末などに予算が多くついていることなどに対し、感謝という気持ちも必要だと思う。また、アンケートについて、子育てと仕事を両立される方、子育てに専念される方、誰もが色々な面で必要な支援を受けられるようにすることが大切だと感じた。
- ・ また、就学前の悩みについて、なかなか相談できないという回答が多いようなので、神戸市も色々施策を行っているとは思いますが、アプリで自分から相談しやすくしたり、1 年ごとにプッシュ型で連絡したり、また、コロナ禍が原因かもしれないが、友人との相談が減ってきている中でファミリー・サポート・センターや周囲の方が地域で関われる働きかけも必要だと思う。小学校に入ると、子どもの友達付き合いに関する悩みが多いということを見ると、発達障害も就学前までは手厚いサポートがあるが、その後もフォローを継続、ワンストップ的な支援も含め、小学校以降も切れ目なくサポートするこ

とが必要だと思う。また、声が出せない方のサポートとして、例えばヤングケアラーの支援について、親や先生に言えないことを聞いてあげるような支援も必要だと思う。

○議長

- ・神戸市からのプッシュ型配信はすでにされていると思うが、その中には公的資源だけでなく、民間資源も含まれているのか。神戸市が民間資源について発信することについて躊躇される場合もあると思うが、どうか。

●事務局

- ・子ども・子育て支援をしていくにあたり、民間の様々な施設と行政との連携を強化していくことが非常に重要だと考えている。様々な施策を充実させてきているところだが、課題は横と繋がっていくことだと考えているので、十分に注意をしながら民間と行政との連携を深めていきたい。
- ・情報発信については、民間の個々の情報までを発信することには難しさもあるが、施設一覧を作成してホームページに掲載したり、こどもっと KOBE くらぶで市民が民間のサービスなどを利用した場合にご自身の目線で発信することなども行っている。
- ・民間のサービスも含め、子育てしやすい街にしていくというのは大変重要だと考えているので、できることに限りはあるものの、そのような視点を持って今後も取り組んでまいりたい。

○議長

- ・神戸市には児童館が 120 あり、地域の情報を把握し、気軽に情報を得ることができる施設として、これからますます重要になってくるのではないかと思う。すぐ行ける児童館から児童相談所まで、ネットワーク化していくという考え方を進めていると聞いているので、そのような詳細について、またこの会議で情報提供いただきたい。

○委員

- ・児童館の予算がわかったのが 2 月下旬であり、それから人員を見つける必要があること、また、若い職員を獲得できる体制に課題がある。すぐに児童館が変わっていくことは難しいので、徐々に努力していく。区役所内にあるおやこふらっとひろばと保健師等とのつながり、また児童館とどのように連携するかということを検討中である。

○委員

- ・高校生通学定期券補助、ウェルカム定期便の開始、産後ホームヘルプサービスの拡充について、大変感謝する。
- ・ウェルカム定期便について、昨年度の出生数に 37,000 円をかけても足りないが、半分の金額ということか。児童館のチーフアドバイザーは元々いらっしゃる方なのか。資料 1 の 2 ページ「出産子育て応援交付金」について、本当に効果があるのかを検証してほしい。本来は支援サービスとして実施いただいた方が、地域の資源とつながるきっかけになると思うので、この検証をしてほしい。定期便で情報提供するということが、身近な地域の情報も保護者へ伝えてほしい。
- ・また、8 ページ「地域子育て支援拠点」のうち民間による拠点について、2 年前は 7 か

所、今年度は3か所、来年度は1か所になると聞いた。それぞれ施設側の事情や利用頻度などもあると聞いているが、民間事業者は地域の情報をたくさん持っているところもあるので、地域で歩いて行ける小さな拠点についても考えていただけたらと思う。児童館の充実にもつながると思う。私の近所にある児童館は、靴を脱いで3階まで上がる必要があり、敷居が高い。使いやすい児童館になることを願っている。

●事務局

- ・出産・子育て応援交付金については、国の制度となっており、全国一律でやっている。
- ・交付にあたり、個別面談を行い、色々な施策があるということもお伝えし、面談と交付金をセットにして行っている。この制度自体の効果検証は難しいかもしれないが、利用者の声を聴きながら進めていきたい。
- ・ウェルカム定期便については開始時期が秋以降の予定なので、半分の予算となっている。
- ・民間の子育て事業者の取り組みについても把握しながら、民間・行政が一緒にうまく連携していきたいと考えている。

○議長

- ・来年度は、次期計画を策定する非常に大切な年になる。事務局においては、本日いただいた意見をしっかりと踏まえながら、次年度の計画の素案づくりを進めていただきたい。

第2回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見要旨

【議題1について】

- 神戸市からどれだけ自分の子どもが支援を受けているのかわかるよう、対象想定者1人あたりどれだけの予算がかけられるのかを示していただきたい。
- 出産・子育て応援交付金について、現金給付から支援サービスへ転換すれば、子育てスタート期の保護者が地域の資源とつながるきっかけになり、その後の子育てに同じ地域で寄り添い続けられることとなる。地域の力をつくるきっかけとして、この給付金を活用する意味があると思う。
- こべっこウェルカム定期便について、おむつなど届ける際に情報提供等することだが、相談を受けたりしんどそうな親に会った場合、どのような連携を考えているか。
- 子どもが急に休園や学級閉鎖となった場合、急に一時保育等を利用することもできないため、コワーキング施設のサービスについて、子どもが病気でない場合は休園や学級閉鎖のような場合にも親子で利用できるよう拡充していただきたい。
- 充実した支援を考えていただいたと思う。内容を熟知し、必要な方へ伝えていけるようにするとともに、困っている方が気軽に相談を受けられる場所作りをし、窓口になりたいと思う。
- 区によって対象者に差が生じる施策もあるのではないか。学童保育施設については、地域によって利用する児童数にも差があるので、関わる人材の確保が重要。
- 地域子育て支援拠点の運営・整備について、民間による拠点が年々減ってきていると聞いている。民間による拠点については常勤を配置するような条件を記載しつつ単年度事業として募集をかけていたので、民間の継続困難を招いているのではないか。「国の予算がつくかわからない」とも聞いたが、そのような事情があっても大学の拠点は毎年継続されるのはどのような理由からか。民間の拠点の縮小について、再考される余地があってもよいのでは。
- 青少年の居場所作りについて、これからの地域での活動に繋がっていくことを願っている。
- 医療的ケア支援について、気管切開をしている子どもは現状スクールバスには乗れないと聞いた。呼吸器を使っているために医療的ケアが必要な子どもが支援を受けられない

のであれば、支援の目的が達成できていないと思う。

【議題2について】

- 5 ページにおいて、就学前の子どもを持つ親が子育て相談をする先は保育園、幼稚園、認定こども園などが42.6%と家族・友人に次いで高い割合になっているが、子育てアドバイザーのような資格を持った教職員が1人でも園にいれば、そのような相談を受けられるのではないかと。名称は神戸らしいものにしても良いと思う。
- 10 ページのこども誰でも通園制度を利用したい理由について、5.9%の方が「パート就労のため」と回答されているが、月10時間が上限の本制度によって就労を始めることは現実的でないように感じる。回答した市民が制度を十分に理解出来ていない可能性があるため、各制度の説明ではなく想定されるニーズに応じた制度提案していただきたい。
- 17 ページ「地域子育て支援拠点事業の利用状況」において、「施設を利用しなくなった」理由について前回の調査と比較して利用経験がある方は増えている一方で、もう利用しておらず、かつ次の問25でも半数弱の方が「利用したいと思わない」と回答している理由が気になる。
- 会議でも話があったが、アンケートに答えることができない方が支援が必要なので、アンケートに答えられず困っている人達に対しても支援が必要だということを念頭に置き、神戸市としての方針を考えていただきたい。
- 長期休み中に子どもみでの留守番をさせたり、ショッピングモールに子どもを放置する場合もあると聞くので、子どもへのアンケートで「長期休みの過ごし方」についても調査してみてはどうか。